

決算の状況

◆貸借対照表

(単位：千円)

科 目	第71期 (2024年3月31日)	第72期 (2025年3月31日)
(資産の部)		
現金	6,156,590	5,388,254
預け金	272,711,480	252,241,940
買入手形	—	—
コールローン	—	—
買現先勘定	—	—
債券貸借取引支払保証金	—	—
買入金銭債権	—	—
金銭の信託	—	—
商品有価証券	—	—
有価証券	121,463,592	108,811,458
国債	11,049,400	11,977,460
地方債	22,058,922	20,136,933
社債	80,146,654	68,541,029
投資信託	198,725	289,255
株式	6,900	6,900
外国証券	8,002,990	7,859,880
貸出金	1,011,972,158	1,042,340,746
手形貸付	8,387,544	8,523,610
証書貸付	995,297,619	1,025,450,410
当座貸越	8,286,993	8,366,725
外国為替	—	—
その他資産	10,243,376	10,201,658
未決済為替貸	7,851	67,435
労働金庫連合会出資金	7,300,000	7,300,000
前払費用	38,044	25,604
未収収益	2,290,156	2,381,123
その他の資産	607,324	427,494
有形固定資産	6,170,682	6,004,788
建物	3,107,358	2,887,654
土地	2,646,870	2,646,870
建設仮勘定	—	—
その他の有形固定資産	416,453	470,263
無形固定資産	32,198	29,557
前払年金費用	371,471	—
繰延税金資産	2,797,566	4,317,006
再評価に係る繰延税金資産	—	—
債務保証見返	635,202	494,007
貸倒引当金	△46,208	△34,148
(うち個別貸倒引当金)	(—)	(—)
資産の部合計	1,432,508,111	1,429,795,269

科 目	第71期 (2024年3月31日)	第72期 (2025年3月31日)
(負債の部)		
預金積金	1,274,449,222	1,256,522,880
当座預金	29,391	38,349
普通預金	473,850,910	479,215,927
貯蓄預金	603,683	574,869
別段預金	293,309	855,046
定期預金	799,671,927	775,838,687
その他の預金	—	—
譲渡性預金	17,438,310	23,408,391
借入金	50,169,796	63,150,820
売渡手形	—	—
コールマネー	—	—
売現先勘定	—	—
債券貸借取引受入担保金	—	—
コマーシャル・ペーパー	—	—
外国為替	—	—
その他負債	2,621,858	2,320,978
未決済為替借	6,732	40,148
未払費用	585,658	956,951
給付補填備金	—	—
未払法人税等	632,411	450,988
前受収益	—	—
払戻未済金	7,378	30,315
払戻未済持分	10	60
金融派生商品	—	—
資産除去債務	157,553	157,236
その他の負債	1,232,114	685,277
代理業務勘定	—	—
賞与引当金	363,284	367,126
役員賞与引当金	—	—
退職給付引当金	2,820,479	2,125,867
役員退職慰労引当金	65,097	80,067
睡眠預金払戻損失引当金	12,242	2,211
特別法上の引当金	—	—
繰延税金負債	—	—
再評価に係る繰延税金負債	—	—
債務保証	635,202	494,007
負債の部合計	1,348,575,494	1,348,472,352
(純資産の部)		
出資金	3,842,234	3,811,919
普通出資金	3,842,234	3,811,919
優先出資申込証拠金	—	—
資本剰余金	—	—
利益剰余金	84,273,256	85,643,225
利益準備金	4,090,962	4,090,962
その他利益剰余金	80,182,294	81,552,263
特別積立金	77,236,500	79,036,500
(特別積立金)	(20,953,300)	(20,953,300)
(金利変動等準備積立金)	(24,550,000)	(25,350,000)
(機械化積立金)	(15,000,000)	(15,700,000)
(経営基盤強化積立金)	(12,215,394)	(12,215,394)
(地震災害対策積立金)	(2,600,000)	(2,750,000)
(店舗等建設資金積立金)	(1,150,000)	(1,300,000)
(配当準備積立金)	(700,000)	(700,000)
(圧縮記帳積立金)	(67,805)	(67,805)
当期末処分剰余金	2,945,794	2,515,762
処分未済持分	△ 43	△ 130
自己優先出資	—	—
自己優先出資申込証拠金	—	—
会員勘定合計	88,115,447	89,455,014
その他有価証券評価差額金	△ 4,182,831	△ 8,132,096
繰延ヘッジ損益	—	—
土地再評価差額金	—	—
評価・換算差額等合計	△ 4,182,831	△ 8,132,096
純資産の部合計	83,932,616	81,322,917
負債及び純資産の部合計	1,432,508,111	1,429,795,269

◆損益計算書

(単位：千円)

科 目	第71期 (2023年4月1日～2024年3月31日)	第72期 (2024年4月1日～2025年3月31日)
経常収益	15,000,097	15,191,789
資金運用収益	13,162,135	13,530,005
貸出金利息	10,861,303	11,197,046
預け金利息	910,115	1,070,905
有価証券利息配当金	1,055,340	996,789
その他の受入利息	335,375	265,264
役務取引等収益	665,929	663,880
受入為替手数料	108,317	122,680
その他の役務収益	557,611	541,200
その他業務収益	1,160,387	985,201
外国為替売買益	—	—
国債等債券売却益	25,735	817
その他の業務収益	1,134,652	984,384
その他経常収益	11,644	12,701
貸倒引当金戻入益	10,911	12,060
償却債権取立益	240	53
株式等売却益	—	—
その他の経常収益	493	587
経常費用	12,107,248	12,872,215
資金調達費用	319,654	839,455
預金利息	314,061	830,093
譲渡性預金利息	5,593	9,042
借入金利息	—	319
金利スワップ支払利息	—	—
役務取引等費用	3,406,535	3,706,849
支払為替手数料	481,588	505,717
その他の役務費用	2,924,946	3,201,131
その他業務費用	1,241	59,204
外国為替売買損	—	—
国債等債券売却損	—	41,847
その他の業務費用	1,241	17,357
経費	8,360,314	8,255,324
人件費	4,769,842	4,711,656
物件費	3,255,873	3,201,363
税金	334,598	342,303
その他経常費用	19,502	11,381
貸倒引当金繰入額	—	—
その他資産償却	10,349	11,381
その他の経常費用	9,152	—
経常利益	2,892,849	2,319,574
特別利益	200	—
固定資産処分益	200	—
その他の特別利益	—	—
特別損失	6,301	10,586
固定資産処分損	5,001	7,609
減損損失	1,300	2,977
税引前当期純利益	2,886,747	2,308,987
法人税、住民税及び事業税	650,423	469,113
法人税等調整額	70,799	74,669
法人税等合計	721,222	543,783
当期純利益	2,165,524	1,765,204
繰越金(当期首残高)	780,270	750,557
当期末処分剰余金	2,945,794	2,515,762

◆剰余金処分計算書

(単位：千円)

科 目	第71期 (総会承認日：2024年6月24日)	第72期 (総会承認日：2025年6月25日)
当期末処分剰余金	2,945,794	2,515,762
剰余金処分額	2,195,236	1,794,327
利益準備金	—	—
普通出資に対する配当金	115,238	114,329
事業の利用分量に対する配当金	279,997	279,997
特別積立金	1,800,000	1,400,000
(金利変動等準備積立金)	(800,000)	(650,000)
(機械化積立金)	(700,000)	(550,000)
(地震災害対策積立金)	(150,000)	(100,000)
(店舗等建設資金積立金)	(150,000)	(100,000)
繰越金(当期末残高)	750,557	721,435

貸借対照表、損益計算書および剰余金処分計算書については、2025年5月23日に労働金庫法第41条の2第3項の規定に基づき会計監査人（有限責任あずさ監査法人）の監査を受け、2025年5月23日に監事の監査を受けております。

なお、貸借対照表、損益計算書は同年6月25日の総会に報告し、剰余金処分計算書は承認を受けております。

◆出資配当等

(単位：千円、%)

科 目	第71期 (総会承認日：2024年6月24日)	第72期 (総会承認日：2025年6月25日)
出資配当金	115,238	114,329
出資配当率	3.00	3.00
利用配当金	279,997	279,997
配当負担率	13.41	15.67

(注) 配当負担率 = $\frac{\text{出資配当金} + \text{利用配当金}}{\text{当期末処分剰余金}} \times 100$

2024年度における貸借対照表、損益計算書および剰余金処分計算書(以下、「財務諸表」という。)ならびに財務諸表作成に係る内部監査等について適正性・有効性等を確認しております。

2025年6月26日

静岡県労働金庫
理事長

増田 泰孝

1. 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

2. 有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券の評価は、売買目的有価証券については時価法(売却原価は主として移動平均法により算定)により行っております。

満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、子会社・子法人等株式及び関連法人等株式については移動平均法による原価法、その他有価証券については時価法(売却原価は主として移動平均法により算定)、ただし市場価格のない株式等については移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

3. 有形固定資産(リース資産を除く)の減価償却の方法

有形固定資産の減価償却は、当金庫の定める決算経理規程に基づき定率法(ただし、1998年4月1日以後に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については定額法)を採用しております。

また、主な耐用年数は次のとおりです。

建 物	15年～39年
その他	5年～20年

4. 無形固定資産(リース資産を除く)の減価償却の方法

無形固定資産の減価償却は、定額法により償却しております。なお、自金庫利用のソフトウェアについては庫内における利用可能期間(5年)に基づいて償却しております。ただし、利用により将来の収益獲得又は費用削減が確実と認められないソフトウェアについては、当該年度にて全額を償却しております。

5. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建の資産・負債は、主として決算日の為替相場による円換算額を付しております。

6. 貸倒引当金の計上基準

貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

「銀行等金融機関の資産の自己査定並びに貸倒償却及び貸倒引当金の監査に関する実務指針」(日本公認会計士協会 銀行等監査特別委員会報告第4号 2022年4月14日)に規定する正常先債権及び要注意先債権に相当する債権については、一定の種類毎に分類し、過去の一定期間における各々の貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者(以下「破綻懸念先」という。)に係る債権に相当する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち必要と認める額を計上しております。破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者(以下「破綻先」という。)に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者(以下「実質破綻先」という。)に係る債権に相当する債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額を計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署の協力の下に資産査定部署が資産査定を実施しております。

7. 賞与引当金の計上基準

賞与引当金は、職員への賞与の支払いに備えるため、職員に対する賞与の支給見込額のうち、当事業年度に帰属する額を計上しております。

8. 退職給付引当金の計上基準

退職給付引当金は、職員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、必要額を計上しております。また、退職給付債務の算定に当たり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については期間定額基準によっております。なお、過去勤務費用及び数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりです。

(1) 過去勤務費用

その発生時の職員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(7年)による定額法により損益処理

(2) 数理計算上の差異

各事業年度の発生時の職員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(7年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生時の翌事業年度から損益処理

当金庫は2024年11月に、2025年4月1日から職員の定年年齢を60歳から65歳に延長し、併せて退職金制度の変更(退職一時金と確定給付企業年金の支給時期を65歳とすること等)を決定いたしました。この退職金制度の変更に伴い過去勤務費用529,437千円(退職給付債務の減少)が発生し、2024年度はこのうちの31,514千円を費用処理しております。

9. 役員退職慰労引当金の計上基準

役員退職慰労引当金は、役員への退職慰労金の支払いに備えるため、役員に対する退職慰労金の支給見積額のうち、当事業年度末までに発生していると認められる額を計上しております。

10. 睡眠預金払戻損失引当金の計上基準

睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り、必要と認める額を計上しております。

11. 収益の計上方法

役務取引等収益は、役務提供の対価として収受する収益であり、内訳として「受入為替手数料」「その他の受入手数料」「その他の役務取引等収益」があります。このうち、受入為替手数料は、送金、代金取立等の為替業務に基づく収益です。

役務取引等にかかる履行義務は、通常、対価の受領と同時期に充足されるため、原則として、一時点で収益を認識しております。

12. 消費税及び地方消費税の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。固定資産に係る控除対象外消費税等は当事業年度の費用、その他の資産に計上し、その他の資産については5年間で均等償却を行っております。

13. 有形固定資産の減価償却累計額及び圧縮記帳額

有形固定資産の減価償却累計額	9,944,777千円
有形固定資産の圧縮記帳額	32,340千円

14. 理事及び監事との間の取引による理事及び監事に対する金銭債権総額
168,514千円

15. 理事及び監事との間の取引による理事及び監事に対する金銭債務総額
－千円

16. 破産更生債権及びこれらに準ずる債権額、危険債権額

債権のうち、破産更生債権及びこれらに準ずる債権額は、1,446,875千円、危険債権額は、2,466,350千円です。

なお、債権は、貸借対照表の社債（その元本の償還及び利息の支払の全部又は一部について保証しているものであって、当該社債の発行が有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）によるものに限る。）、貸出金、外国為替、「その他資産」中の未収利息及び仮払金並びに債務保証見返の各勘定に計上されるもの並びに欄外に注記することとされている有価証券の貸付けを行っている場合のその有価証券（使用貸借又は賃貸借契約によるものに限る。）です。

破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。

また、危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しないものです。

17. 三月以上延滞債権額

債権のうち、三月以上延滞債権額は、85,592千円です。

なお、三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権並びに危険債権に該当しないものです。

18. 貸出条件緩和債権額

債権のうち、貸出条件緩和債権はありません。

なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建等を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権並びに三月以上延滞債権に該当しないものです。

19. 破産更生債権及びこれらに準ずる債権額、危険債権額、三月以上延滞債権額並びに貸出条件緩和債権額の合計額

破産更生債権及びこれらに準ずる債権額、危険債権額、三月以上延滞債権額並びに貸出条件緩和債権額の合計額は、3,998,818千円です。

なお、16. から 19. に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額です。

20. 担保に供している資産

内国為替取引、借入金、当座借越契約に係る担保として、労働金庫連合会定期預け金100,530,900千円を、公金取扱いの担保として定期預け金100千円を差し入れております。

また、その他の資産には保証金130,186千円が含まれております。

21. 出資1口当たりの純資産額

21,334円57銭

22. 目的積立金

目的積立金は特別積立金に含めて記載しております。

23. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当金庫は、預金業務、融資業務及び市場運用業務などの金融業務を行っております。

このため、金利変動による不利な影響が生じないように、資産及び負債の総合的管理（A L M）をしております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

当金庫が保有する金融資産は、主として事業地区内のお客様に対する貸出金です。

また、有価証券は、主に債券、投資信託及び株式であり、その他目的で保有しております。

これらは、それぞれ発行体の信用リスク及び金利の変動リスク、市場価格の変動リスクに晒されております。

一方、金融負債は主としてお客様からの預金であり、流動性リスクに晒されております。

また、変動金利の預金については、金利の変動リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスクの管理

当金庫は、融資業務諸規程及び信用リスクに関する管理諸規程に従い、貸出金について、個別案件ごとの与信審査、与信限度額、信用情報管理、保証や担保の設定、問題債権への対応など与信管理に関する体制を整備し運営しております。

これらの与信管理は、各営業店のほか融資部により行われ、また、定期的に経営陣による理事会や常務会を開催し、審議・報告を行っております。

さらに、与信管理の状況については、融資部がチェックしております。

有価証券の発行体の信用リスク及びデリバティブ取引のカウンターパーティーリスクに関しては、経営企画部において、信用情報や時価の把握を定期的に行うことで管理しております。

② 市場リスクの管理

(i) 金利リスクの管理

当金庫は、A L Mによって金利の変動リスクを管理しております。

A L Mに関する規則及び要領において、リスク管理方法や手続等の詳細を明記しており、常務会において決定されたA L Mに関する方針に基づき、理事会において実施状況の把握・確認、今後の対応等の協議を行っております。

定期的にリスク統括部において金融資産及び負債の金利や期間を総合的に把握し、ギャップ分析や金利感応度分析等によりモニタリングを行っております。

(ii) 為替リスクの管理

当金庫は、為替の変動リスクについては、A L Mに関する規則及び要領並びに余裕資金運用規程に従い、個別の案件ごとに管理しております。

(iii) 価格変動リスクの管理

有価証券を含む市場運用商品の保有については、理事会の方針に基づき、余裕資金運用規程に従い行っております。

このうち、経営企画部では、市場運用商品の購入を行っており、事前審査、投資限度額の設定のほか、継続的なモニタリングを通じて、価格変動リスクの軽減を図っております。

これらの情報はリスク統括部を通じ、理事会及びリスク管理委員会に定期的に報告されております。

(iv) 市場リスクに係る定量的情報

当金庫において、主要なリスク変数である金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、「預け金」、「有価証券」のうち債券、「貸出金」、「預金積金」、「譲渡性預金」及び「借用金」であります。

当金庫では、これらの金融資産及び金融負債についての金利リスク量をV a Rにより月次で計測し、取得したリスク量がリスク限度額の範囲内となるよう管理しております。このうち流動性預金のV a Rについては、滞留期間を考慮したコア預金内部モデルを用いて算出し、住宅ローンのV a Rについては、過去の実績に基づくプリペイメント（期限前返済）モデルを用いて算出しております。当金庫のV a Rは分散共分散法（保有期間20日、信頼区間99%、観測期間5年）により計測しており、当事業年度末現在での金利リスク量は全体で2,017,949千円です。

なお、当金庫では、モデルが算出したV a Rと実際の損益を比較するバックテストを定期的に実施し、計測手法の有効性を検証しております。ただし、V a Rは過去の相場変動をベースに統計的に算出した一定の発生確率での金利リスク量を計測しており、通常では考えられないほど市場環境が激変する状況下におけるリスクは捕捉できない場合があります。

③ 資金調達に係る流動性リスクの管理

当金庫は、A L Mを通して、適時に資金管理を行うほか、資金調達手段の多様化、市場環境を考慮した長短の調達バランスの調整などによって、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

24. 金融商品の時価等に関する事項

2025年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりです（時価等の算定方法については（注1）を参照）。なお、市場価格のない株式等及び組合出資金は、次表に含めておりません（（注2）参照）。

また、重要性の乏しい科目については記載を省略しております。

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
(1) 預け金	252,241,940	249,769,857	△ 2,472,083
(2) 有価証券			
満期保有目的の債券	-	-	-
その他有価証券	108,804,558	108,804,558	-
(3) 貸出金	1,042,340,746		
貸倒引当金(*)	△ 34,148		
	1,042,306,597	1,038,453,178	△ 3,853,419
金融資産計	1,403,353,096	1,397,027,594	△ 6,325,502
(1) 預金積金	1,256,522,880	1,254,567,601	△ 1,955,279
(2) 譲渡性預金	23,408,391	23,392,332	△ 16,058
(3) 借入金	63,150,820	63,150,820	-
金融負債計	1,343,082,093	1,341,110,754	△ 1,971,338

(*) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

(注1) 金融商品の時価等の算定方法

金融資産

(1) 預け金

満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。満期のある預け金については、約定期間に基づく区分ごとに、新規に預け入れを行った場合に想定される適用金利で割り引いた現在価値を算定しております。

(2) 有価証券

債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。投資信託は、取引所の価格又は公表されている基準価格によっております。

(3) 貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、貸出金の種類、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額を同様の新規貸出を行った場合に想定される利率で割り引いて時価を算定しております。

また、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等については、担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は決算日における貸借対照表上の債権等計上額から貸倒引当金計上額を控除した金額に近似しており、当該価額を時価としております。

貸出金のうち、当該貸出を担保資産の範囲内に限るなどの特性により、返済期限を設けていないものについては、返済見込み期間及び金利条件等から、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としております。

金融負債

(1) 預金積金

要求払預金については、決算日に要求された場合の支払額（帳簿価額）を時価とみなしております。また、定期預金の時価は、一定期間ごとに区分して、将来のキャッシュ・フローを割り引いて現在価値を算定しております。その割引率は、新規に預金を受け入れる際に使用する利率を用いております。

(2) 譲渡性預金

譲渡性預金の時価の算定方法は、預金積金の定期預金時価の算定と同様です。

(3) 借入金

借入金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、当金庫の信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、一定の期間ごとに区分した当該借入金の元利金の合計額を同様の借入において想定される利率で割り引いて現在価値を算定しております。なお、約定期間が短期間（1年以内）のもの時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(注2) 市場価格のない株式等及び組合出資金の貸借対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価情報には含まれておりません。

（単位：千円）

区 分	貸借対照表計上額
労働金庫連合会出資金(*)	7,300,000
非上場株式(*)	6,900
合 計	7,306,900

(*) 労働金庫連合会出資金、非上場株式については、市場価格がないことから「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日）第5項に従い時価開示の対象とはしておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位：千円)

	1年以内	1年超3年以内	3年超5年以内	5年超
預け金	81,201,240	118,935,800	52,104,900	—
有価証券				
満期保有目的の債券	—	—	—	—
その他有価証券のうち満期があるもの	2,000,000	2,700,000	16,900,000	90,503,700
貸出金(*)	65,503,338	103,957,898	91,626,451	777,339,831
合 計	148,704,579	225,593,698	160,631,351	867,843,531

(*) 貸出金のうち、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等、償還予定額が見込めないもの、期間の定めがないものは含めておりません。

(注4) 借入金及びその他の有利子負債の決算日後の返済予定額

(単位：千円)

	1年以内	1年超3年以内	3年超5年以内	5年超
預金積金(*)	901,975,941	304,118,587	47,661,726	2,766,625
譲渡性預金	21,602,051	1,806,340	—	—
借入金	13,150,820	50,000,000	—	—
合 計	936,728,813	355,924,927	47,661,726	2,766,625

(*) 預金積金のうち、要求払預金は「1年以内」に含めております。

25. 有価証券の時価、評価差額等に関する事項

有価証券の時価、評価差額等に関する事項は次のとおりです。

- (1) 売買目的有価証券
保有しておりません。
- (2) 満期保有目的の債券
保有しておりません。
- (3) 子会社・子法人等株式及び関連法人等株式
保有しておりません。
- (4) その他有価証券

(単位：千円)

	種 類	貸借対照表計上額	取得原価	差 額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	—	—	—
	債券	2,232,384	2,207,535	24,849
	国債	1,229,960	1,207,537	22,422
	地方債	—	—	—
	短期社債	—	—	—
	社債	1,002,424	999,998	2,426
	その他	1,004,900	1,000,000	4,900
	小 計	3,237,284	3,207,535	29,749
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	—	—	—
	債券	98,423,037	109,397,283	△ 10,974,246
	国債	10,747,500	12,625,900	△ 1,878,400
	地方債	20,136,933	22,631,634	△ 2,494,701
	短期社債	—	—	—
	社債	67,538,604	74,139,748	△ 6,601,143
	その他	7,144,235	7,497,456	△ 353,220
	小 計	105,567,273	116,894,739	△ 11,327,466
合 計		108,804,558	120,102,275	△ 11,297,717

26. 当事業年度中に売却した満期保有目的の債券

該当ありません。

27. 当事業年度中に売却したその他有価証券

(単位：千円)

	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	—	—	—
債券	159,930	—	41,847
国債	159,930	—	41,847
地方債	—	—	—
短期社債	—	—	—
社債	—	—	—
その他	21,883	817	—
合 計	181,813	817	41,847

28. 有価証券の貸付等

無担保の消費貸借契約（債券貸借取引）により貸し付けられている有価証券が、国債に10,437,260千円含まれております。

29. 当座貸越契約等

当座貸越契約及び貸出金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸し付けることを約する契約であり、これらの契約に係る融資未実行残高は139,025,520千円です。このうち原契約期間が1年以内のものは30,891,629千円です。

これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当金庫の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当金庫が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられています。

また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている庫内手続きに基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

なお、総合口座についての未実行残高は上記の金額のうち108,133,890千円ですが、定期預金を担保としており債権保全上の措置をとっております。

30. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生的主要原因別の内訳

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生的主要原因別の内訳は、それぞれ次のとおりです。

繰延税金資産

有価証券評価差額	3,165,620 千円
退職給付引当金	595,229 千円
減価償却累計額	404,602 千円
賞与引当金	100,262 千円
その他	392,073 千円
繰延税金資産小計	4,657,788 千円
評価性引当額	△304,078 千円
繰延税金資産合計	4,353,709 千円

繰延税金負債

圧縮記帳積立金	26,122 千円
資産除去債務	10,580 千円
繰延税金負債合計	36,703 千円
繰延税金資産の純額	4,317,006 千円

31. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額

「所得税法等の一部を改正する法律（2025年法律第13号）」が2025年3月31日に成立したことに伴い、2026年4月1日以後に開始する事業年度から「防衛特別法人税」の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の27.31%から、2026年4月1日以後開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については28.02%となります。この税率変更により、当事業年度の繰延税金資産は104,354千円増加し、その他有価証券評価差額金は80,213千円減少し、法人税等調整額は24,140千円減少しております。

32. 重要な会計上の見積り

会計上の見積りにより当事業年度に係る計算書類にその額を計上した項目であって、翌事業年度に係る計算書類に重要な影響を及ぼす可能性があるものではありません。

以 上

第72期会計方針及び注記事項(損益計算書関係)

1. 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

2. 出資1口当たりの当期純利益金額 460円52銭

3. 固定資産の重要な減損損失

重要な減損損失はありません。

4. 収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は、貸借対照表の注記において、「11.収益の計上方法」に注記しております。

以 上